



「原発ゼロ」を訴える小泉氏＝16日、松江市殿町の島根県民会館

「自然エネの時代だ」

小泉元首相が原発ゼロ講演

松江

「原発ゼロ社会の実現」を訴えて全国行脚している小泉純一郎元首相の講演会（実行委員会主催）が16日、松江市内で開かれた。「福島第1原発事故を教訓に、原発から自然エネルギーへの転換という実現可能で国民みんな

主張していた「原発は安全、低コスト、クリーン」は全てうそだと、首相時代の原発推進の考えを改め、脱原発を訴えている。

講演では、福島第1原発事故前に全エネルギーの2%だった自然エネルギーが18年は15%になったと紹介。「日本は太陽光、風力、地熱と自然エネルギーに恵まれている。国が後押しすれば、国のエネルギー計画の30年の原発依存20、22%は自然エネルギーに換えられる」と述べた。

原発について、核燃料サイクル事業の破綻や核のごみの最終処分場のめどが立たない問題点などを指摘。「原発に頼らず自然エネルギーで経済発展する時代」と結んだ。

実行委事務局長の保母武彦島根大名大学教授は「保革を超え、保守政権の中心にいた人が原発ゼロを訴えた話は重い」と話した。
(酒井建治)